

◆ コスモエネルギーホールディングス（5021）

2017年度 通期決算 アナリスト・投資家向け決算説明会 質疑応答の要旨

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 －

1. 日時 : 2018年5月11日（金） 10:00 - 10:40
2. 出席者 : 90名
3. 主な質疑応答 :

<石油事業>

Q1：18年度の石油事業の中で、千葉パイプライン効果はどの程度織り込まれているのか。

A1：当初計画通り、年間で両社100億円、当社分50億円のシナジーを見込んでいるものの、18年度からのパイプライン運用開始のため、今年度はフル寄与を織り込んでいない。

Q2：18年度の石油事業のマージン前提の考え方、及び数量が減少する要因について教えてほしい。

A2：17年度のマージン状況を振り返ると、1Q（4-6月）が低く、2Q以降改善してきた。17年度の状況を踏まえ、18年度計画マージンは、保守的に考えつつも17年度比で若干の上振れを見込んでいる。数量については前年比3.5%減少を見込んでいるがこれは、主に定修影響により原油処理が減少することに対応したものである。

Q3：昭和四日市石油との提携の進捗について教えてほしい。

A3：昭和四日市石油に3.7万BD生産委託し、順調に両社でメリットを得ている。

Q4：18年度計画は輸出により増益を見込んでいるが、国内は減販としている。全体としての戦略を教えてください。

A4：輸出に関しては計画ありきで積極的に実施するのではなく、内需とのバランスを考慮しながら実施していく。

Q5：輸出環境の考え方について教えてほしい。

A5：将来的な環境は不透明なもの、昨年に続いて足元の状況は良好。

<石油開発事業>

Q6：ヘイル油田及び既存油田の生産状況について教えてほしい。

A6：ヘイル油田は順調に生産を続けている。なお、既存油田については原油を吸い上げる電動ポンプのトラブルがあったものの、生産量は徐々に回復している。

<キャッシュ・フロー、株主還元、繰延税金資産>

Q7：18年度で想定されるフリーCF及び、ネットD/Eレシオの見通しについて、株主還元方針も踏まえて教えてほしい。

A7：原油価格の状況等、不透明な要因はあるものの計画通り推移した場合、18年度のCFは、営業CFで1,200億円程度、投資CFは▲1,100億円程度、財務CFは▲100億円程度。ネットD/Eレシオは2倍を切る水準に到達すると考えている。原油価格が計画通り65ドル/Bで推移すれば、ネットD/Eレシオ2倍を切る水準となるが、更なる株主還元については、財務体質等を考慮しながら考えていきたい。

Q8：繰延税金資産の17年度の計上額及び18年度の見通しについて教えてほしい。

A8：17年度末において40億円程度、繰延税金資産の積み増しを実施したため、2月公表値（当期純利益700億円）と比べ当期純利益が増益となった。18年度については、今後会計士との協議が必要となるが、18年度計画が達成できる場合、更に40億円から50億円程度、繰延税金資産の積み増しを見込んでいる。

<第6次連結中期経営計画の進捗>

Q9：現時点での、事業ポートフォリオ変化に向けた進捗について教えてほしい。

A9：長期的には再生可能エネルギーを事業の柱としていきたいと考えており、第6次中計期間中では、主に風力発電事業の拡大を進めていく。陸上風力サイトの開発は順調に進捗しているものの、洋上風力サイトの開発に関しては、まだ国内での制度が確立されていない状況。コスモとしてやるべきことは既に実施しており、今後は我が国の制度に併せてどのように洋上風力サイト開発を進めていくのかが課題。

Q10：第6次中計期間中の投資額の推移について教えてほしい。

A10：2020年からのIMO規制に早期に対応するためコーカーへの投資等により、第6次中計期間中の前半において投資が増加する見込み。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。